



図書館におけるShibboleth利用の実現可能性 - IP認証からID認証へのパラダイムシフト -



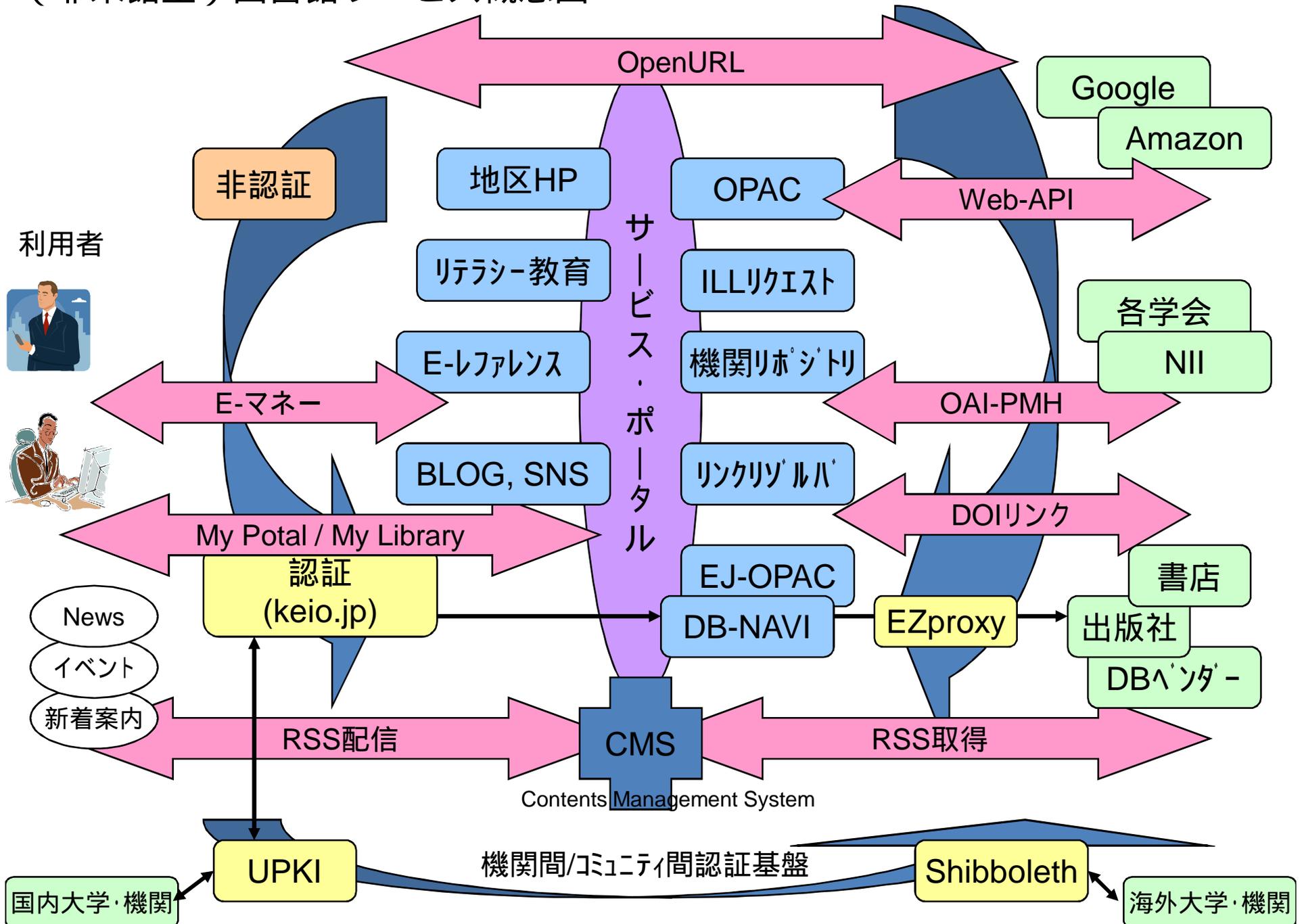
2008年11月10日(月) UPKI-SSO実証実験中間報告

慶應義塾大学メディアセンター本部システム担当
田邊 稔



KEIO 150
Design the Future

(非来館型) 図書館サービス概念図





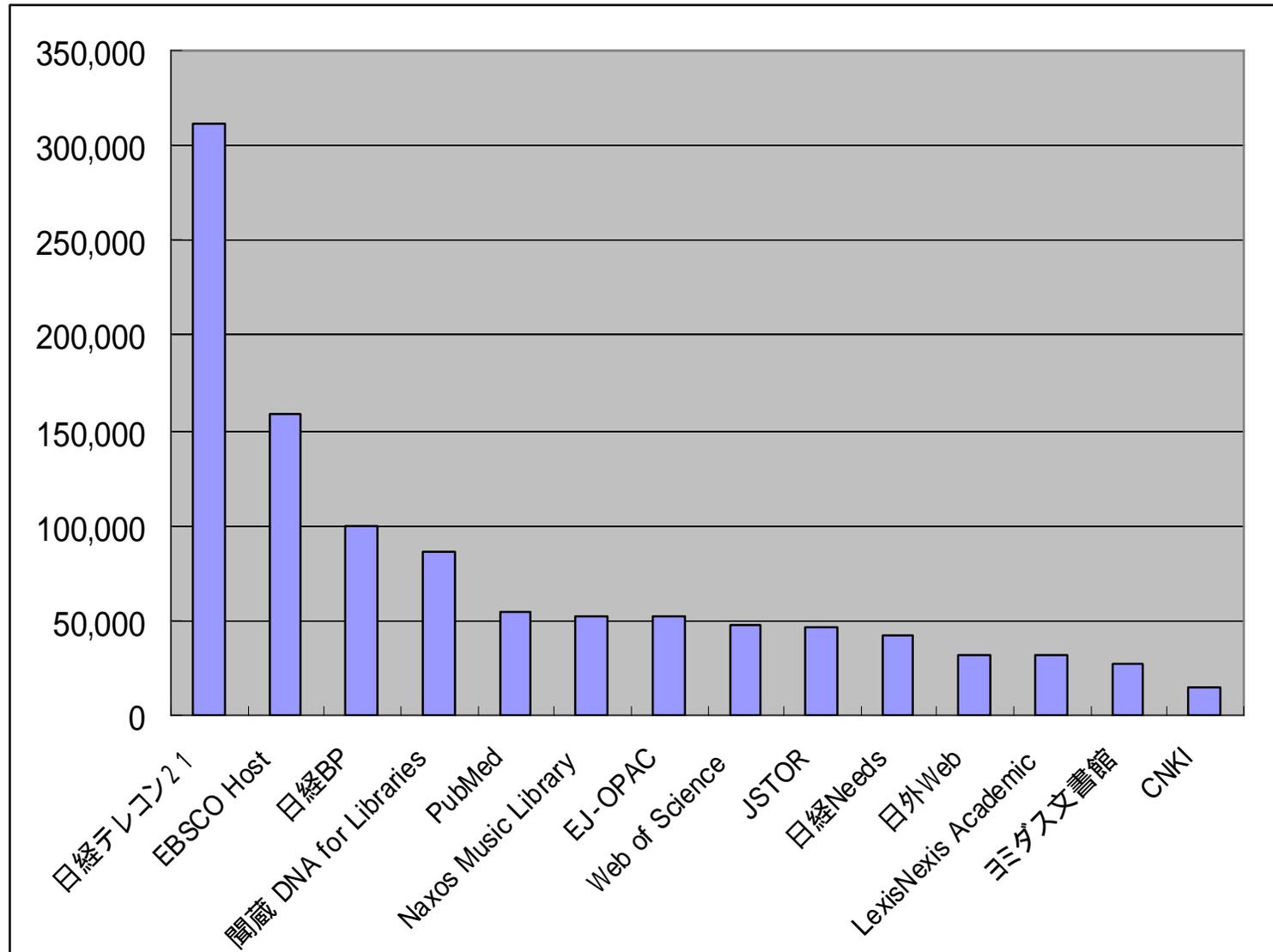
慶應義塾の全学統合認証サービス

- 慶應で一意的ID
- シングルサインオン (SSO)
- 学部生、院生、教職員に配布 (非常勤者へも逐次配布中)
- 将来的に塾員 (卒業生) にも配布の可能性あり

Keio.jpで利用できる図書館サービス

- 図書利用状況照会 (貸出・予約・未収金)
- E J / D B リモートアクセスサービス (KRAS)
 - 学部生・院生 (正規生) と教職員 (常勤) のみ利用可
 - 非常勤教員や訪問研究員などからも強い要望あり
- 今後のサービス展開
 - マイライブラリ機能へ拡張

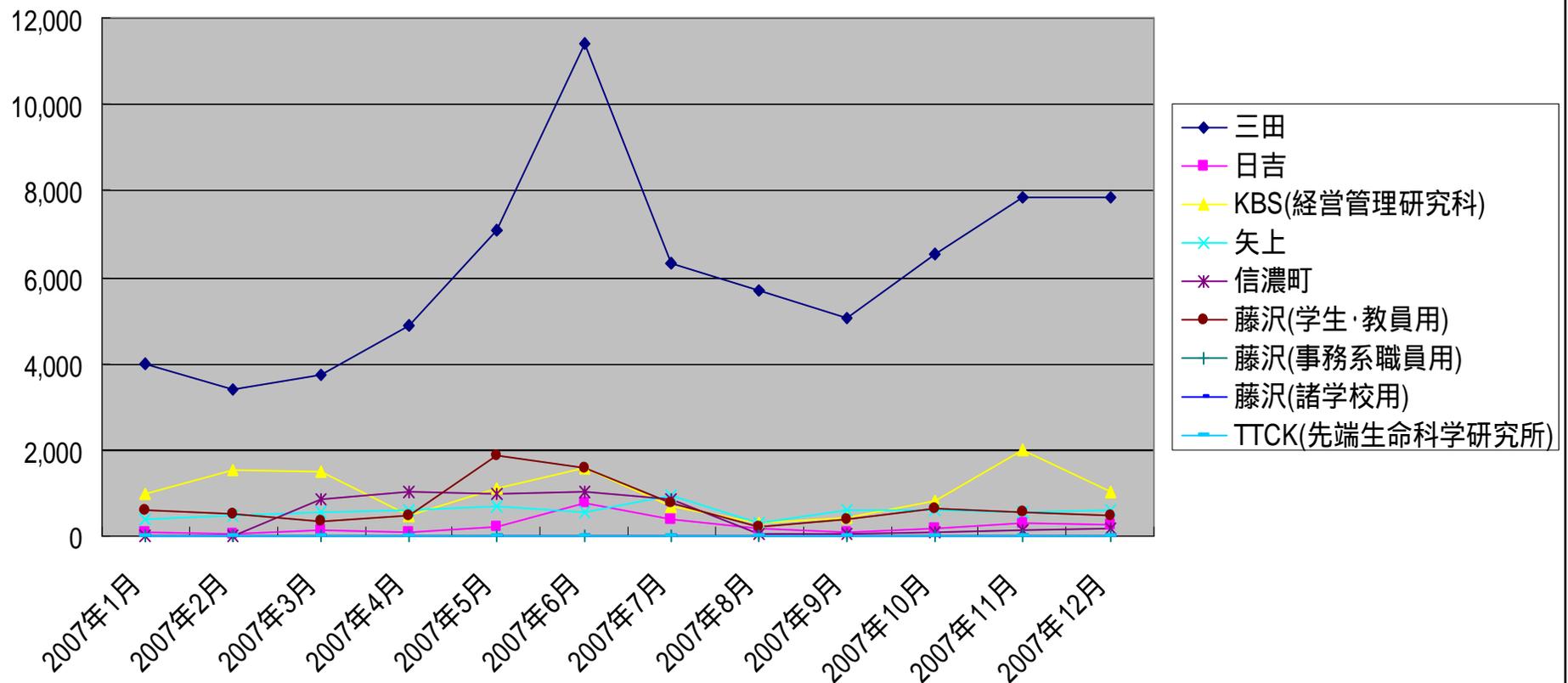
コンテンツ別月間ページビュー～TOP14(2008年9月)



日経BP(従量制)への年間利用ログ(2007年)



慶應大学様ご利用状況





NII-UPKI テスト・フェデレーション

- 2007年度 国立大学 + 慶應大学で意見交換会を実施
 - どんなものかを知ってもらう、敷居を下げて参加を呼びかけ
- 2008年度 実証実験実施中
 - IdPおよびSPの構築
 - 慶應はかなり出遅れています！
- 国内フェデレーションの意義（期待！？）
 - 大学間認証基盤の整備
 - ID管理代行
 - 1つのコンソーシアムとしての新たな版元交渉戦略？？？

図書館から見たShibbolethの特徴とは？



- 属性の判定結果によってアクセス制御できるもの
- ログインした後は関連する組織のサイトにアクセスが可能
- 図書館界を取り巻くシボレス化現象(Shibbolizing)
 - 大手版元、大手システムベンダーや機関が対応
 - Elsevier社SD , Ex Libris社MetaLib , 英国JISC , OCLC-EZproxy 等々

機関連携認証 (Shibboleth) イメージ図

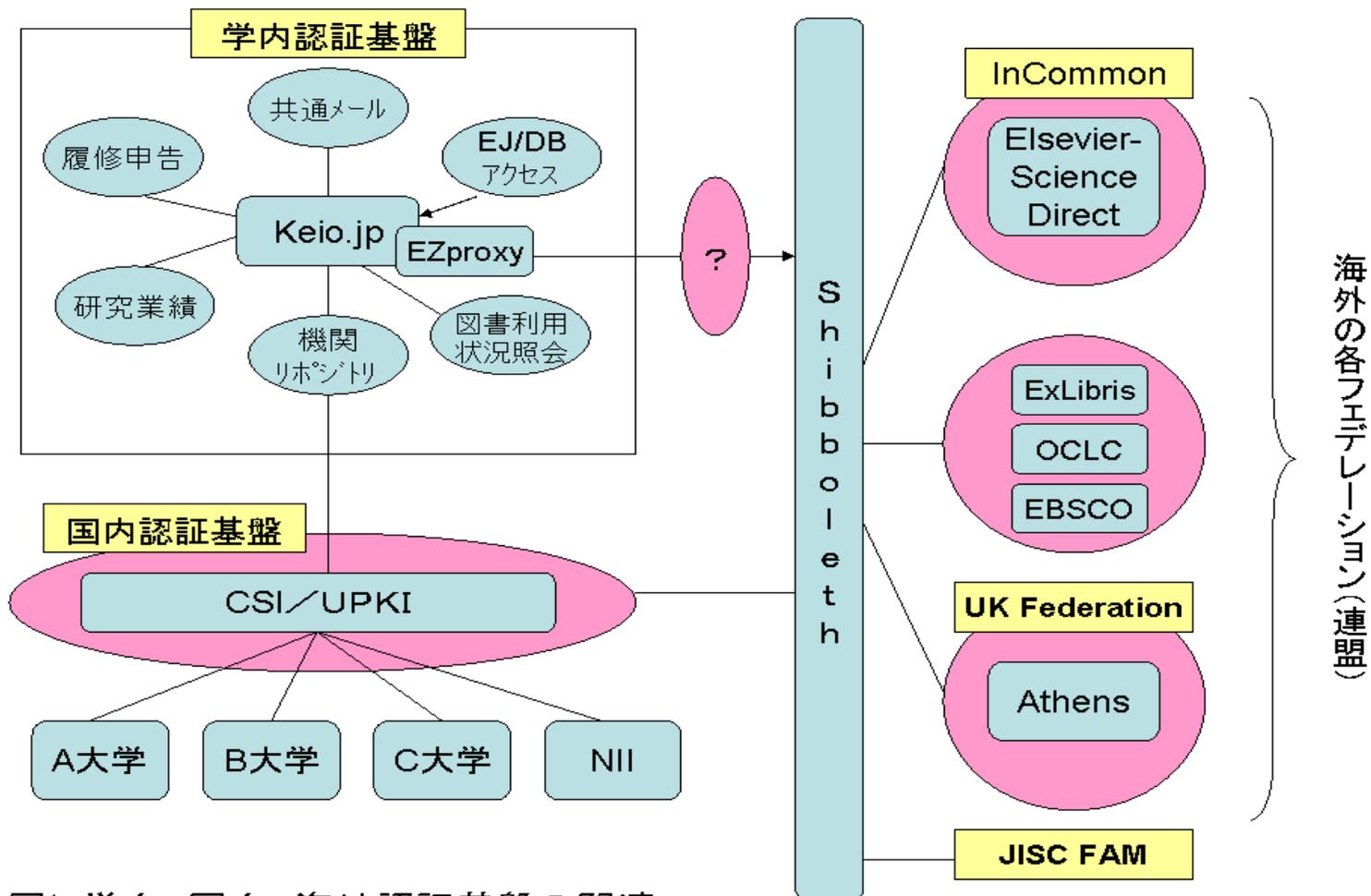


図1. 学内、国内、海外認証基盤の関連

図書館におけるSSOやリモート環境の背景と仮説



< 背景 >

今や、図書館利用者にとって、自宅や外出先から商用データベースや電子ジャーナル・電子ブックへアクセスできることは、学術情報収集や論文執筆のための“ライフライン”の1つとなっている

< 仮説 1 >

図書館にとって、学内にSSOが既にあり、リモートアクセス環境が整備されている場合、Shibbolethの必要性は感じないのでは？

< 仮説 2 >

図書館が技術的にできるのか？また、できたとしても、やる意義があるのか？IT基盤センター等にお問い合わせすればよいのでは？



Shibboleth化するメリット

- 1) 学内リモートアクセス環境を持たない大学にとっては『渡りに船』
- 2) 出版者やDBベンダーをID認証へと誘導するきっかけ(としたい)
煩雑なIPレンジ管理から大学・ベンダー双方が開放される
- 3) 国内の出版者やDBベンダーへのリテラシーアップ
- 4) 学内のEZproxyの理解度向上と他大学へのEZproxyの宣伝効果
- 5) 利用方法の統一化および利用統計の一元化
- 6) 不正アクセスの後追いや抑止効果が期待できる

リモートアクセス利用に関する版元との契約条件

- ・ (前提条件) IPレンジがキャンパス内であること
- ・ (リモートアクセス) Authorized User かつ Secure Network

そもそも、IP認証というのはおかしい(IT担当者として)

- ・ 本来的には「ID認証」へと変更されるべき
- ・ 『Shibboleth認証されていればOK』が理想形

キャンパスIT部門と図書館とのコラボレーション



慶應でリモートアクセスサービス（kras）が推進できた理由

- 1) 図書館ではなく、先生からの強い要望が後押しとなった
 - 先生から言われると弱い
- 2) IT部門にやりたいことを説明し、EZproxyを使ってもらった
 - 最初は『所詮プロキシでしょ（=セキュアではない）』との認識
- 3) 事前に図書館で実験をしていた
 - SSL-VPNアプライアンス+Radiusによる実験
 - アプライアンスはお金がかかる（機器+保守）
 - Radiusは、Yes/Noしか返さないの、属性ハンドリングができない
 - 設定が面倒な割りに、うまくアクセスできないコンテンツがあった
 - Ezproxyは安価で、ハンドリングし易い（欧米の大学ではデファクト）

結論として、“棲み分け（役割分担）”が必要

- SSO基盤（IdP）はIT部門主導、契約やサービス運用（SP）は図書館

EZproxyにおけるShibboleth



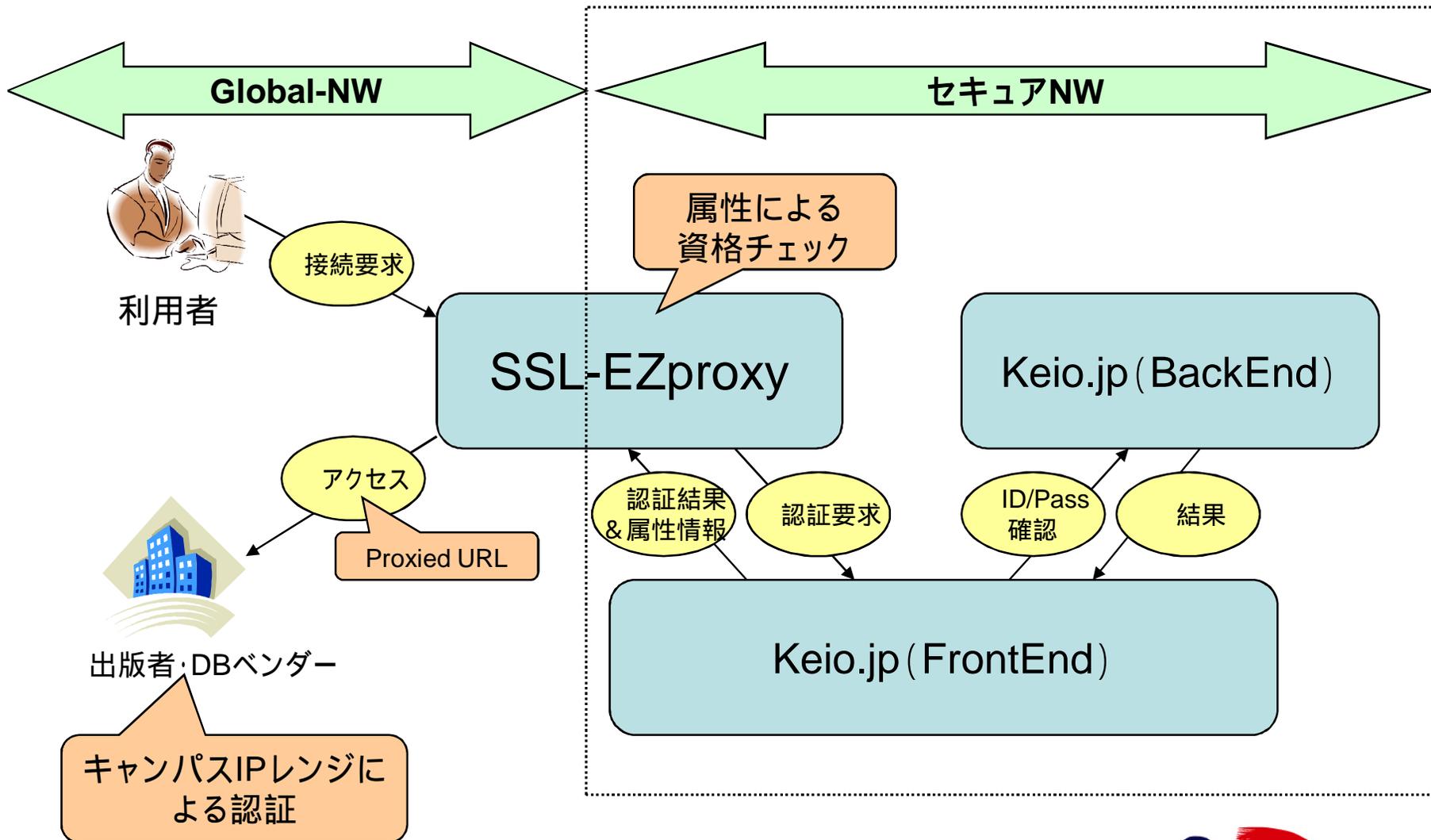
Shibbolethは、EZproxyのSPとなり得る

“ EZproxy 5.1 contains built-in support to support that allows EZproxy to act as a Shibboleth 1.3/2.0 Service Provider (SP), allowing EZproxy to accept user authentication and authorization information from your institution ‘ s Identity Provider (IdP) and to map that information into corresponding EZproxy authorizations. ” (EZproxyのSupportページより抜粋)

Shibboleth 1.3/2.0 Authentication

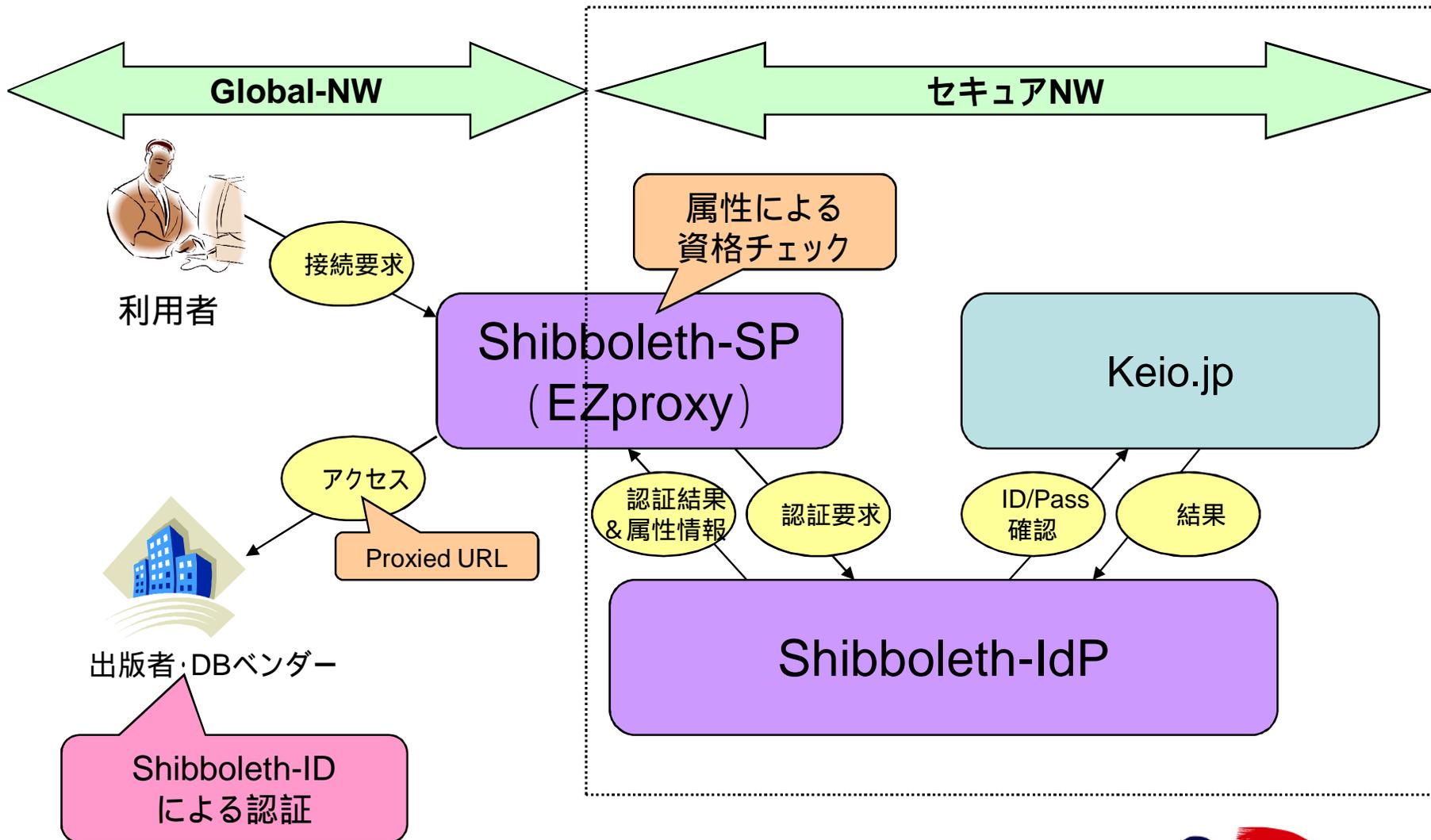
<http://www.oclc.org/support/documentation/ezproxy/usr/shibboleth.htm>

現状のリモートアクセス構成 (Keio.jp認証 + Ezproxy IPレンジ認証)



将来的な構成(案)

(Shibboleth&keio.jp認証 + Ezproxy ID認証へ)



認証付きコンテンツ（論文単位）へのアクセスの実装イメージ



Keio.jp

Calamus Gladio Fortior keio.jp

ログイン

Keio ID

Password

ログイン Login

キャンセル Cancel

Keio ID/Passwordについて

KRAS

慶應義塾大学メディアセンター
リモートアクセスサービス

ようこそゲストさん

システム関連ニュース | コンテンツ関連ニュース

- 電子ジャーナル
 - 慶應義塾大学 電子ジャーナル検索(EJ-OPAC) 同時アクセス数: 無制限
- 電子ブック
 - Safari Tech Books Online 同時アクセス数: 3
- オンラインデータベース
 - 簡潔IIビジュアル for Libraries 同時アクセス数: 15
 - ヨミダス文書館 同時アクセス数: 8
 - 日経テレコン2.1 同時アクセス数: 20

EJ/DBリモートアクセス
サービスで運用中

認証後、属性情報を
マッピングしてグループID
を引き渡す

KOARA

Keio Associated Repository of Academic Resources

お知らせ: 慶應義塾大学学術情報リポジトリ: KOARA (Keio ASSOCIATED REPOSITORY OF ACADEMIC RESOURCES)の収録範囲

この際、慶應義塾大学学術情報リポジトリ (KOARA) をリニューアルいたしました。現在、KOARAに登録済みの紀要・学会誌は以下の通りです。

お知らせ: KOARA (Keio ASSOCIATED REPOSITORY OF ACADEMIC RESOURCES)

KOARA (Keio Associated Repository of Academic Resources)は、慶應義塾大学の知の発信と保存を目的として、慶應義塾大学内で生産・保有する学術的産物を電子的な形態で収集・蓄積し、国内外の誰もがアクセスし利用できるようにWeb上で公開するものです。KOARAに掲載されたコンテンツには、学術情報として流通しやすくするためのデータを付加しており、国内外からの効果的な検索を可能としています。以前KOARAに一時特許に抵触・公開していた貴重資料などのコンテンツは、KOARA-A (仮称) (http://koara-a.lib.keio.ac.jp/)としてサービス分割し公開しています。

今後の課題



- 認証システム（SSO）のオープン化
 - Keio.jp > Shibboleth > OpenID
- セキュリティの拡張
 - オブジェクト認証への取り組み等
- EZproxyの普及活動
 - 既に導入されている国際基督教大学、名古屋大学、九州大学等と協力して、「EZproxy研究会(仮)」を発足し、説明会や導入サポートを行う等
- IT部門との協力関係を築く
 - 教員サイドからの後押し
 - ニューヨーク大学の事例を参考に利用者サービス視点を共有する
- 出版社、DBベンダーのリテラシー向上と契約の簡素化
 - グレーゾーン（非常勤の先生や外部資金の研究者等）利用者への踏み込み



- 「次世代図書館サービスにおける認証システム」
 - 田邊稔 . Medianet No.13(2006.10), p22-25

- 「リモートアクセス実現までの経緯と今後の課題」
 - 田邊稔 , 平吹佳世子 . Medianet No.14(2007.10), p2-6

- 「慶應義塾大学における電子ジャーナル管理の現状と展望
-EJアクセシビリティを中心として-」
 - 田邊稔 , 山田雅子 . 情報の科学と技術, Vol. 55 (2005) , No.6

Thank You!!



ご静聴ありがとうございました。

田邊 稔

tanabem@lib.keio.ac.jp